

柏原の

キツネ山

平成二年十二月五日号

元吉原地区の柏原に、キツネ山と呼ばれる所があります。ここには昔、キツネが住んでいて、たくさんの人が化かされました。今回は、中柏原新田の高木博さんに伺った「キツネ山」のお話です。

昔は火葬場

JR東田子の浦駅の東側、菊栽培のハウスが建ち並ぶ間に、三十坪ばかりの荒れた土地があります。ここは、キツネ山と呼ばれ、約

三十年ぐらい前まではこの地域の火葬場となっていました。

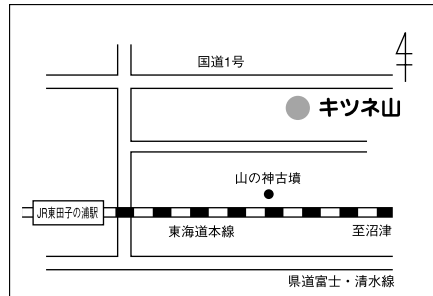
火葬場といっても現在の斎場のように立派な施設ではありません。野天で、まきを組んでお棺を乗せ、長い時間をかけて火葬をした場所でした。

また、近くに家はなく、周りは麦などの畑になっていました。

麦畑でおぼれる

昔々のこと、キツネ山のそばで麦をつくっている松さんが、夜おそくなっても家に帰ってきません。

「どうしたんだろう」心配した漁師の源さ



んたちが捜しに出かけました。

「松さーん。松さんやーい」と、呼びながらキツネ山まで来ると、近くの麦畑がガサガサ揺れています。なんと松さんは麦畑の中を



▲ 現在（平成2年）のキツネ山

ぐるぐるはいずりながら、「あー深い、あー深い」と言い、泥だらけになっているではありませんか。

「松さん何をしてるんだ！」源さんが大声でどなると、松さんはキョトンとした顔をして我に返りました。松さんは、キツネに化かされたのでした。

ようし、おれが V

それから、キツネに化かされた人が相次ぎました。源さんは「ようし、おれがキツネを取っ捕まえてやる」と勇んで、キツネ山に出かけていきました。

ところが、いつまでたっても帰ってきません。村人が見に行くと、源さんも「あーこの川は深い。あぶ、あぶ」と、すっかり化かかれています。

語ってくれた方

高木 博さん